

第 94 回運用委員会議事要旨

1. 日 時：平成 27 年 5 月 21 日（木）13:00～15:00

2. 場 所：年金積立金管理運用独立行政法人 大会議室

3. 参加者：・米澤委員長 ・堀江委員長代理 ・大野委員 ・佐藤委員
・清水委員 ・菅家委員 ・武田委員

4. 議事要旨

(1)「業務方法書の変更案の承認」について

業務方法書の変更案について、多数決を行い、全員賛成により、承認された。

(2)「運用委員会規則改正（案）の承認」について

運用委員会規則の変更案について、多数決を行い、全員賛成により、承認された。

(3)「外国債券運用受託機関の選定（第 3 次審査結果）（案）」について

質疑等の概要は以下のとおりである。

委 員 最初の選考段階で、G P I F はフィーが低いという理由で、優秀でも応募してこないというところはないか。

事務局 どの位のフィーを払っているのかは、公表資料からでもある程度推測できるので、フィーの水準を理由に、応募を自制してきている先がある可能性もゼロとは言えない。

事務局 実際には世界中の多くの運用機関から応募してきている。おそらく上場ものについてはフィーの問題はさほど大きくないのではないか。

委 員 外国債券のパッシブマネジャーを選ぶ基準として、フィーをどう位置づけるべきか。

事務局 パッシブの運用者の行動としては、ベンチマークに合わせて取引執行能力の巧拙で評価に差をつけているが、その点を除くと、商品の均一性は高く、フィーを評価の 1 つの基準とすることに大きな問題はないと思っている。

委 員 第 1 次審査、第 2 次審査による評価が、実際に現地を往訪して経営者やスタッフと話をしたり、システムを見た結果、上がることはあるのか。

事務局 第 2 次審査のヒアリングにおいては、来日できるメンバーも少人数であるため、得られる情報が限定的になる。一方、第 3 次審査において、実際に訪問してアナリストのセクションを見てトレーディングの話を聞き、コンプライアンスセクションなどを見てみると得られる情報量は非常に大きいので、評価が上がるケースもある。

事務局 第 2 次審査で相手の説明を高く評価していれば、実際に第 3 次審査で評価が下

がることもあるし、厳しい目で第 2 次審査をやっていれば第 3 次審査で上がることもあると考えており、予断を持ってみるべきではないが、引き続き審査の能力向上には努力してまいりたい。

以上